

令和6年度TCPトリビンスプランアンケート集計結果〈教職員・子供〉

- 1 実施期間 令和6年10月1日(火)～10月9日(水)
- 2 回答・対象人数 教職員 127人・児童 1,353人、生徒 776人

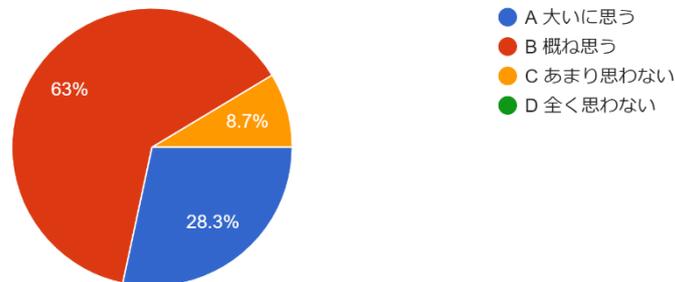
(1)各指標に対する評価・達成状況 ※コメントは評価をC又はDとした理由の抜粋

◆教職員が授業等に専念できる環境づくり

指標1 仕事にやりがいを感じている教職員の割合 100%

(1) 仕事にやりがいを感じていますか。

127件の回答



◆業務に対する多忙感

- ・業務量が多く、やりがいよりも負担感や多忙感を感じることのほうが多い。

◆組織、人事、評価への不満

- ・業務や子供との関わりについては楽しさを感じますが、私自身「この仕事をずっと続けたい」とは思えなくなっているため、やり甲斐を感じていないのだと思います。
- ・組織としての機能が長い年月とともに働かなくなり、人事や評価、諸々の運営が実力や成果でなくその評価者にとって都合が良かったり、なし崩し的になされたりすることが多いと感じるからです。

◆ICT環境整備への不満

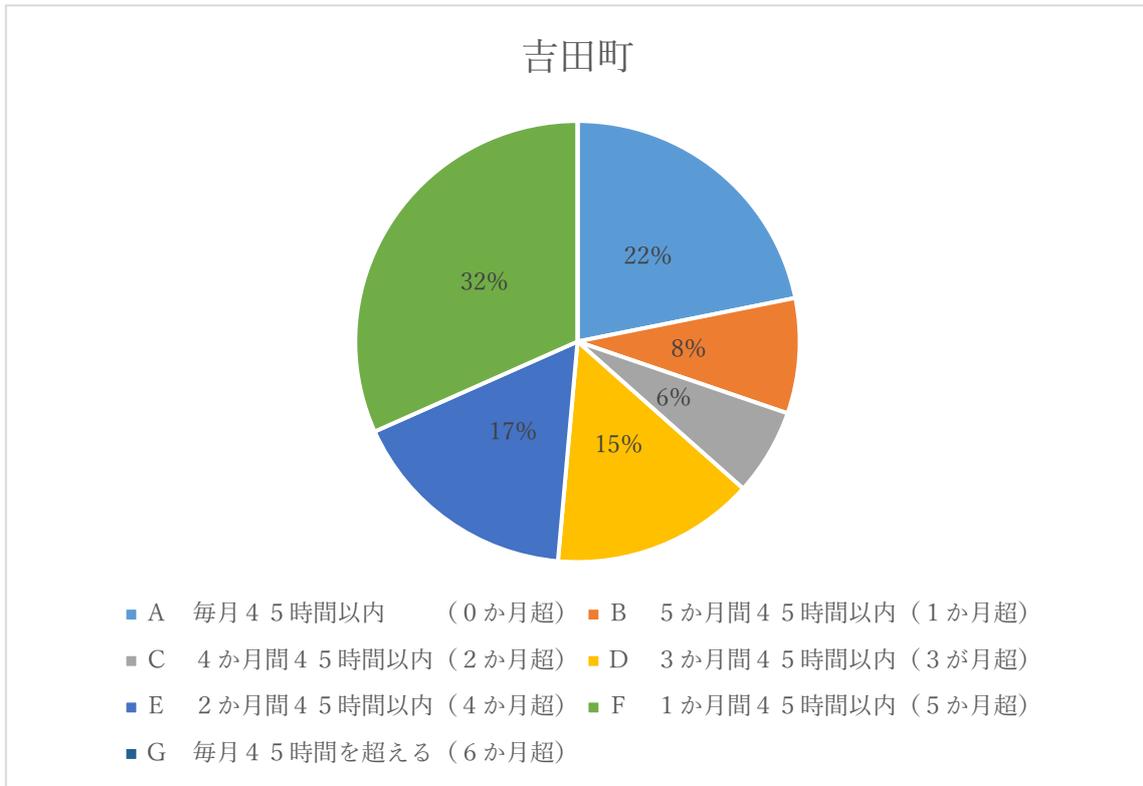
- ・新しいことを覚えることやパソコンなど機器が整うのはありがたいですが、かえって使いにくくなって不便です。精神的な負担を大きく感じています。

◆自己裁量の減少感

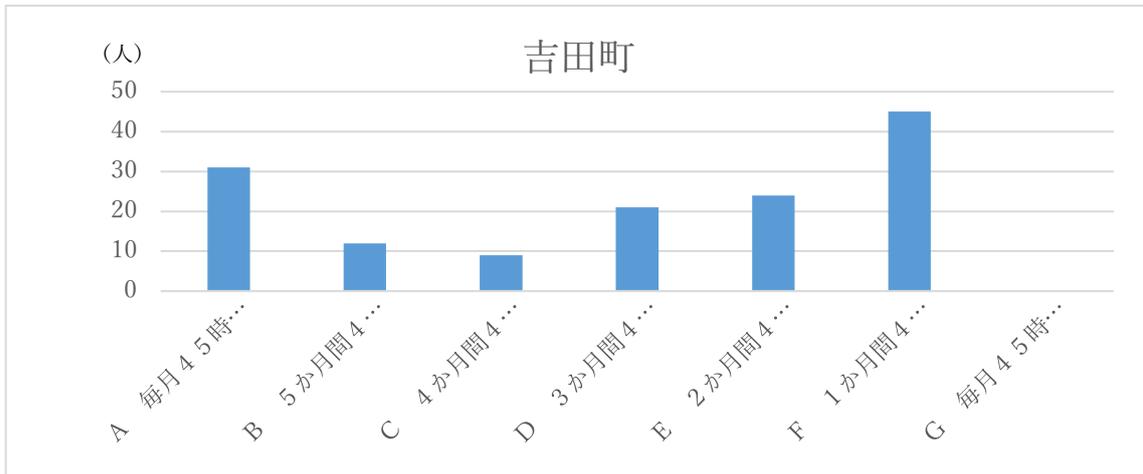
- ・自分たちの裁量でできることが少ない。
- ・「こうしたい」という思いを通そうとするとそれは今の時代に合っていないと言われ否定されるから。
- ・様々な決定に違和感を感じることも多く、自分の思い描いていた場だと感じることも減っている。

指標 2 時間外勤務時間が月 45 時間以内の教職員の割合 100%

6か月間の内、月 45 時間以内であった月数の人数割合



6か月間の内、月 45 時間以内であった月数の人数

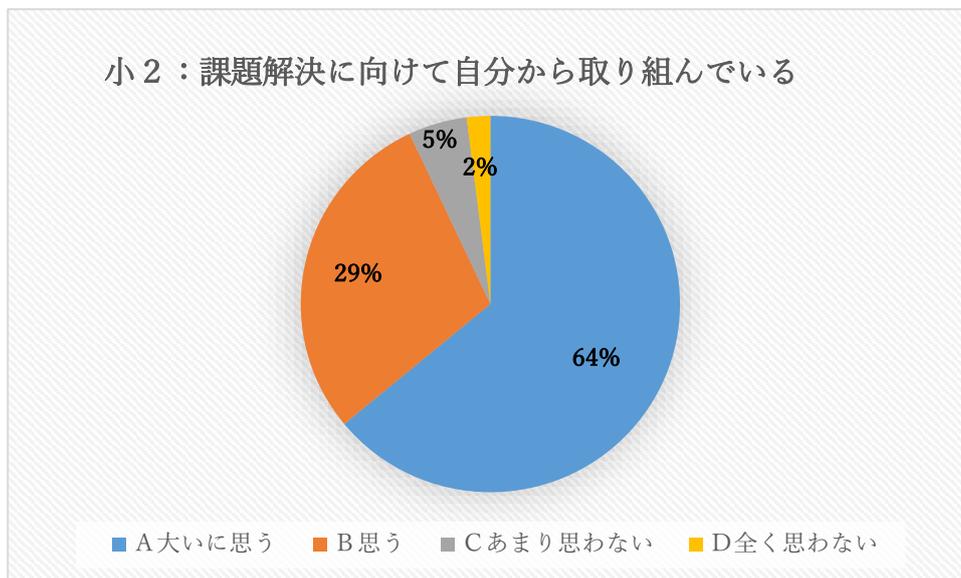
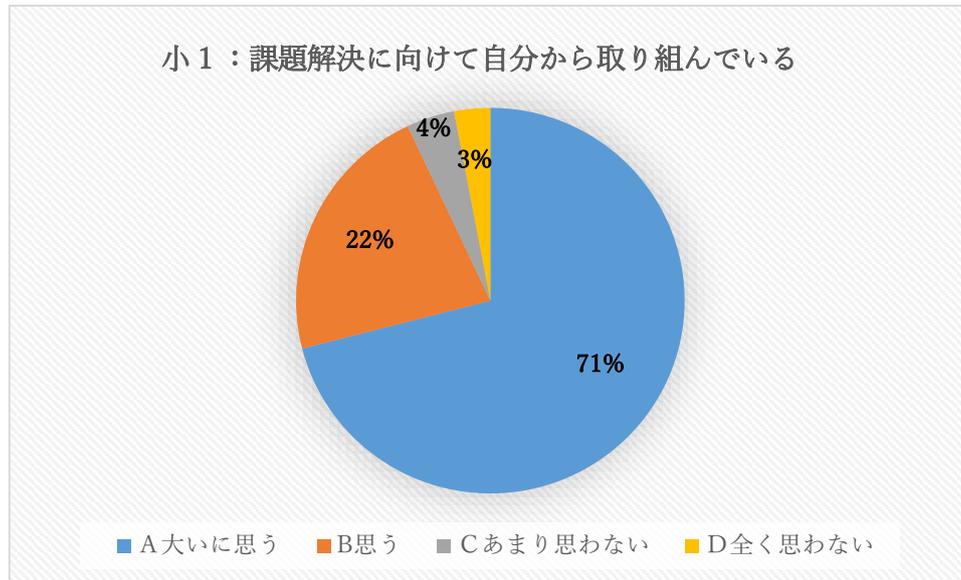


〈R6年4月～9月の時間外勤務調査集計より〉

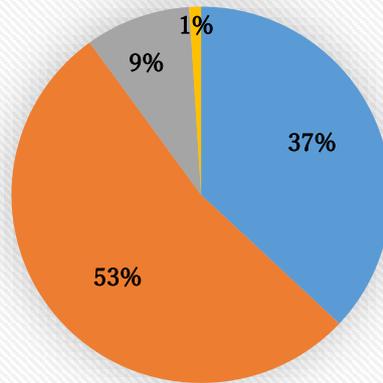
◆子供の「確かな学力」を保障する環境づくり

指標 1 課題解決に向けて自分から取り組んでいる子供の割合 80%以上

〈各校の学校評価の結果集計より〉

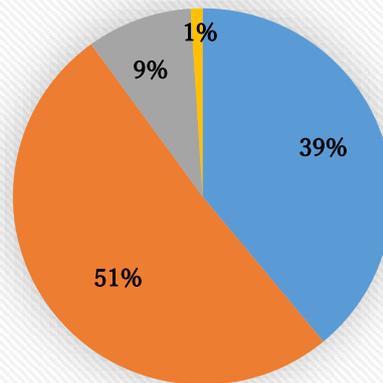


小3：課題解決に向けて自分から取り組んでいる



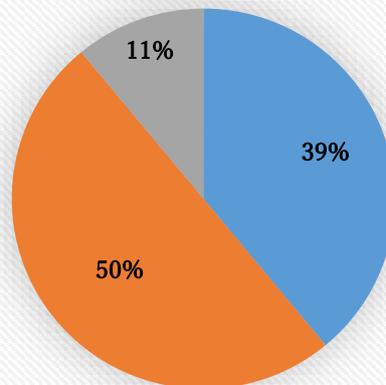
■ A大いに思う ■ B思う ■ Cあまり思わない ■ D全く思わない

小4：課題解決に向けて自分から取り組んでいる



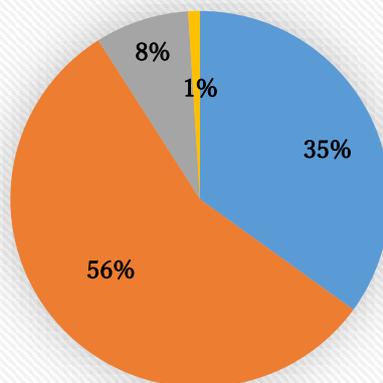
■ A大いに思う ■ B思う ■ Cあまり思わない ■ D全く思わない

小5：課題解決に向けて自分から取り組んでいる



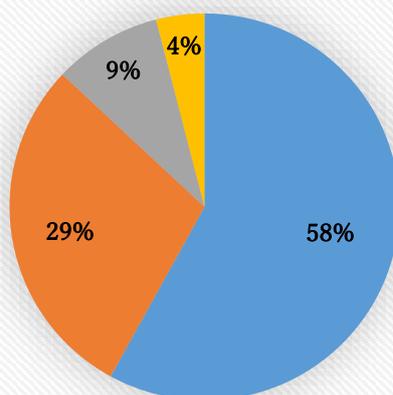
■ A大いに思う ■ B思う ■ Cあまり思わない ■ D全く思わない

小6：課題解決に向けて自分から取り組んでいる



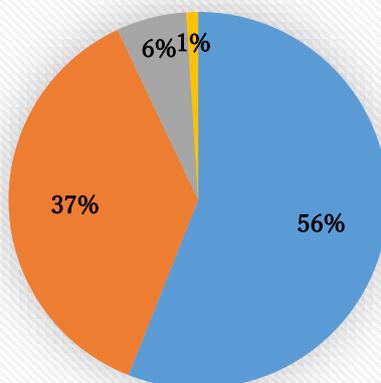
■ A 大いに思う ■ B 思う ■ C あまり思わない ■ D 全く思わない

小学特別支援：課題解決に向けて自分から取り組んでいる



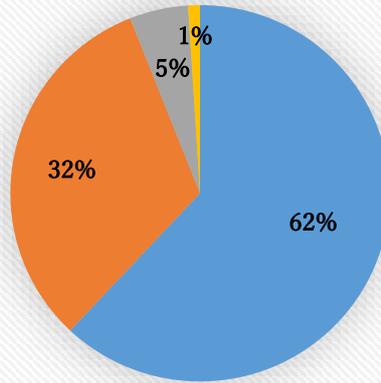
■ A 大いに思う ■ B 思う ■ C あまり思わない ■ D 全く思わない

中1：課題解決に向けて自分から取り組んでいる



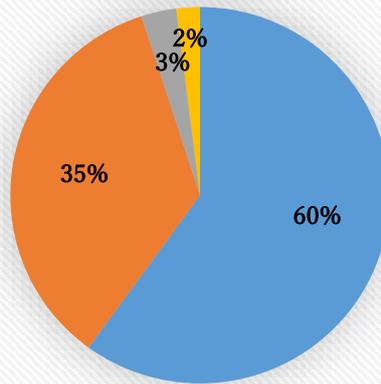
■ A 大いに思う ■ B 思う ■ C あまり思わない ■ D 全く思わない

中2：課題解決に向けて自分から取り組んでいる



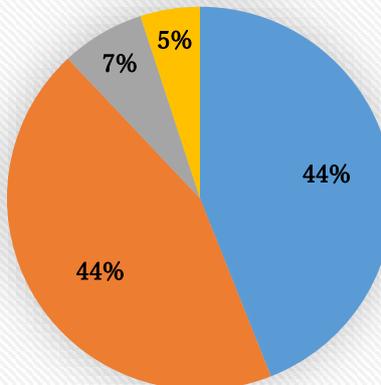
■ A 大いに思う ■ B 思う ■ C あまり思わない ■ D 全く思わない

中3：課題解決に向けて自分から取り組んでいる



■ A 大いに思う ■ B 思う ■ C あまり思わない ■ D 全く思わない

中学特別支援：課題解決に向けて自分から取り組んでいる



■ A 大いに思う ■ B 思う ■ C あまり思わない ■ D 全く思わない

指標 2 全国学力・学習状況調査の平均正答率 県平均以上

平均正答率の静岡県・全国との比較 (%)

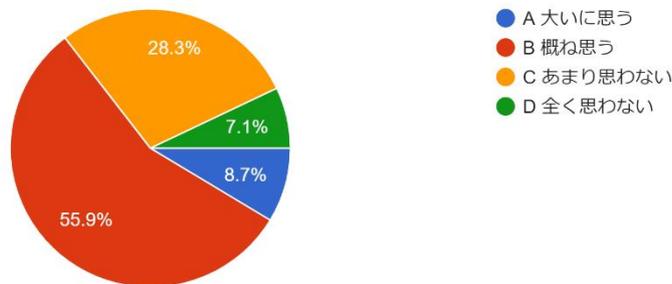
学年	教科	吉田町	静岡県	差	全国	差
小6	国語	64.7	67.2	-2.5	67.7	-3.0
	算数	54.6	61.6	-7.0	63.4	-8.8
中3	国語	59.4	59.0	0.4	58.1	1.3
	数学	50.7	55.3	-4.6	52.5	-1.8

(2)各施策に対する評価 ※コメントは評価を C 又は D とした理由の抜粋

◆「教職員が授業に専念できる環境づくり」に向けた施策

(3) 放課後の時間の生み出し

127 件の回答



◆放課後時間が教材研究等の時間に使えていない

- ・放課後は研修や会議などで勤務時間内に使える時間はない。
- ・さまざまな研修が入ってその事前、事後対応に追われている。
- ・時間は生まれても、やらなければいけない業務が次々と生まれるため、結局時間外にやらなければいけないことが出てくる。常に複数の業務を抱えているため、何かに専念することができない。もっと子どもたちのことを考えて授業を準備したい。
- ・部活動があったり、部活がない日の放課後には大抵会議や研修が入っているため、勤務時間内の放課後に仕事ができることはあまりない。
- ・トリビンスによって放課後の時間は確保されているものの、学年部会が開かれると 16:30 までに終わらない。会議の精選ができていない。

◆校内研修・町主催研修の在り方

・校内、町研修の終了時間がそもそも 16:30 に設定されていることもそうですが、その次の日の授業は学校に戻って考えてということなのか、別時間に各々時間を作ってということなのか、やはり疑問に感じます。放課後の時間、教師の多忙感の問題は根深い問題で、ちょっと何かを変えるだけで解決できるものではないです。

◆ICT環境

・校務用 PC の OS 変更等、実態と合っていないことが多い。
・授業でICTの利用が増えています。いろいろな取り組みができてよかったと思う反面、それに目を通す時間が意外にかかります。

◆部活動

・部活指導で、火木金の放課後の時間がほとんどなく、月曜日や水曜日の放課後も会議などがあり、授業に専念することが難しい。貴重な水曜日に町の研修があるなどすることも、放課後の時間が生み出されていないと感じる。

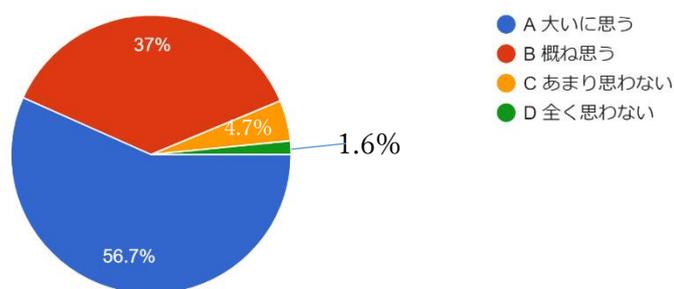
・部活動が 16:30 を越えている以上、十分な時間が取れることは少ないから。

◆生徒指導対応

・生徒指導に関わるが多く、その対応や情報共有、事前の対策の検討などに時間がかかり、定時までに教材研究の時間を確保することは難しいため。

・生徒指導や保護者対応が多く、担任の先生方の授業以外の負担が大きいように思います。

(5) 学校閉庁日の設定
127 件の回答



◆閉庁日設定のねらい

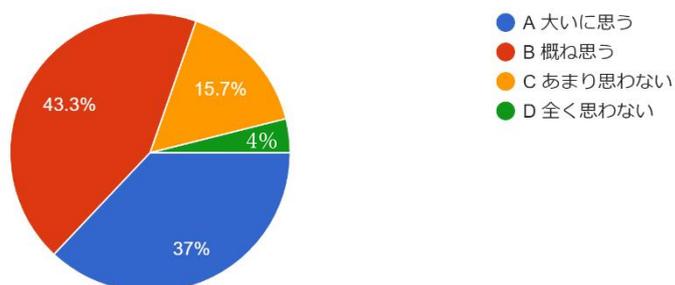
・夏休み中の、閉庁期間に提出しなければならないものがあつたため。もう少し、分散することも可能となるとありがたい。

・閉庁日に休むのではなく、自分の好きなときに休みたいから。

・閉庁日には仕事に関わることはしないため、リフレッシュにはなっているが、授業に専念するための環境整備となっているとは思わない。ただ、閉庁日の日直業務の廃止は教職員の負担軽減になっていると思うので、続けてほしい。

(7) 校務支援のための環境整備

127 件の回答



◆ICT機器の機種変更に関して

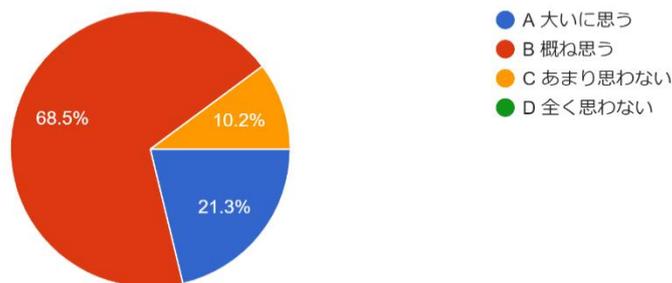
- ・校務パソコンがクロームブックになりオフィスや情報フォルダが使えなくなり大変不便を感じている。
- ・ウィンドウズになれているから、Google に代わるのは結構なストレス。今まで作成したのも作り直さなければならぬから手間がかかる。
- ・C4th からの年度途中の転換や整備不十分の実態など、寧ろ時間や手間がかかったと感じられる。

◆支援員の増員

- ・効果は部分的にあるとは思いますが、結果、足りていないので不十分としか言えません。

(9) コミュニティ・スクールの推進

127 件の回答

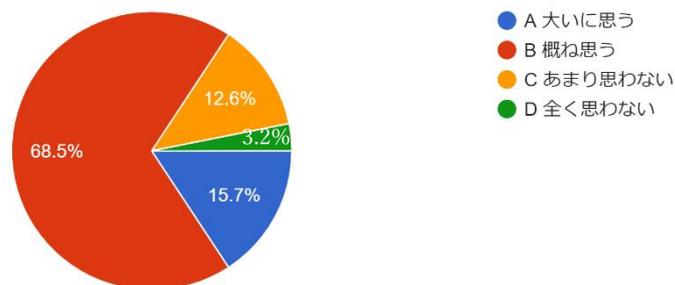


◆コミュニティ・スクールの効果への実感に関して

- ・コミュニティ・スクールをうまく利用できていない。
- ・あまり実際に動いていることを実感できない。
- ・教員側が「どんなことでつながるか。」イメージできていない。
- ・学校運営協議会で話し合われた内容が浸透しているとは言えない。

(11) 児童生徒の適応支援

127 件の回答



◆増員への必要感

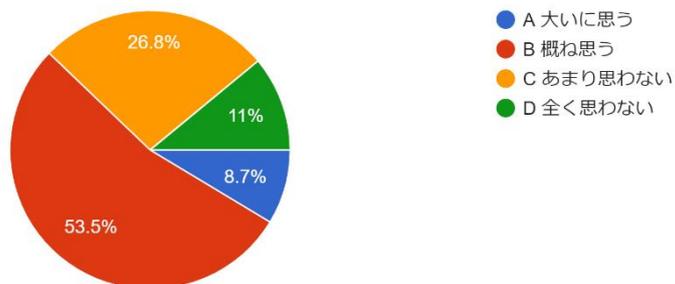
- ・登校しぶり、別室登校を望む子に対応可能な場所や人が足りていない。
- ・細やかな支援が必要な生徒をカバーし切れていない。
- ・支援を要する子が多い中で、適切な支援をするには人手が足りない。
- ・外国籍児童や特別支援が必要な児童のために、もっと多くの支援員による支援や取り出しの授業が効果的だと思う。

◆支援の在り方

- ・不登校の子供達がどんな場でも学習の保障がされていない。基本、学校に出向くことや、ステップに行くことが前提となっており、オンラインでつながることができていない。
- ・保健室登校は養護教諭の負担が大きいため現実性・持続性もなく、機能していません。
- ・支援を求める子どもが多くて、現状ではキャパオーバーであると感じる。本当に支援が必要な子どもと、保護者ががんばってほしい子どもの仕分けの必要を感じる。

(13) 部活動の地域移行の推進

127 件の回答



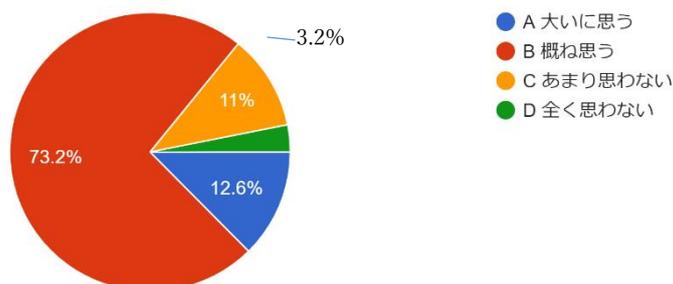
◆進捗状況及び情報の周知に関して

- ・小学校には情報(状況)があまり伝わってこないので実感がない。
- ・教職員の実感としては地域移行推進はまだ始まっておらず、各部活動で外部指導者がいれば依頼しているところもあるというくらいの認識

- ・部活によるところが大きく、専門的な指導を放課後にしてくれる人の確保や、合同チームを組まざるを得ないなど、やることや準備等が更に増えて大変な状況と感じている。
- ・部活動の在り方協議会での方向性や協議の結果が伝わってこない。職員だけでなく、生徒や保護者にどのくらい意識調査が行われ、どのような意識であるのかも知りたい。

◆「子供の『確かな学力』を保障する環境づくり」に向けた施策

(15) 魅力ある授業づくりのための支援
127 件の回答



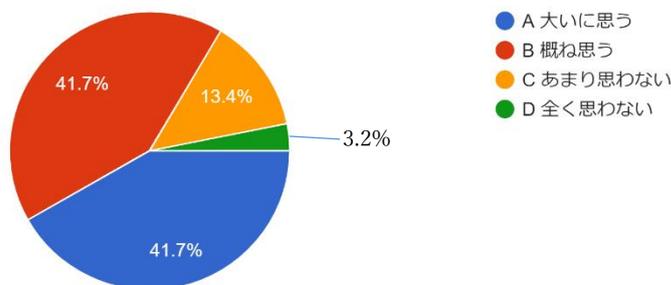
◆日々の授業指導に関して

- ・知識技能面では、若干力が付かないことに困っている。思考判断表現ができるようになってきていると感じる。
- ・低学年、特に1年生に関して、かつてのようにアナログで学習したほうが習熟度は担保できる。
- ・読書の時間の設定がないのが問題。
- ・小学校の基礎学力が未定着のため、学習が困難な生徒が増えてきている。

◆全教職員研修会の在り方について

- ・小学校の全教職員研修で公開する授業の教科が偏っている。現在大学と連携して推し進めている学習スタイルが向いている教科と向いていない教科があるのではないかと。中学校教員も行く形で公開するのであれば、どの教科もまんべんなく公開してほしい。

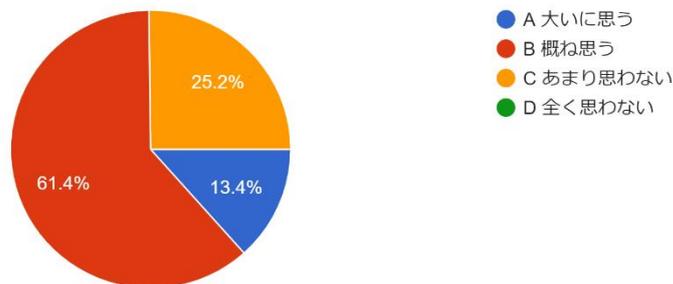
(17) ICT環境の整備
127 件の回答



◆ネット環境の整備

- ・学校全体のアンケートを一斉に実施できない状況。アクセスが集中して接続ができない。
- ・回線が弱く、学校全体とは言わずともせめて学年で同時にできる程度にはお願いしたい。人数が多いのですぐには難しいものだと思うが、ICTを活用した授業を考えるうえで、常に回線が繋がらなかったときのためにアナログの教材も用意しなければでは、意味はないと思う。
- ・全校生徒が同時に使えるWi-Fi環境を整備してほしい。また、特別教室でも1人1台端末が使えるWi-Fi環境にしてほしい。その実現なくして、クラウド活用の授業が進まないと思う。

(19) 個に応じた支援の充実
127件の回答



◆支援員等の人員不足

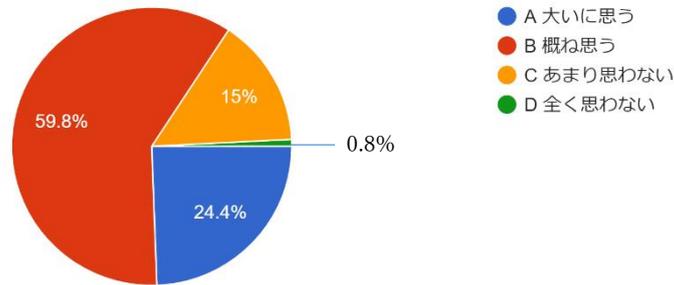
- ・特別支援教育が特にそうなのですが、生徒が1クラスに8人いるのに支援員がいない状況が続き、指導が効率よくできていません。
- ・教員数が足りなく、十分な支援にまで手が届かない。
- ・個の多様化が進み、支援が追いつかない。

◆個への支援の在り方

- ・学力の個人差に対する支援が授業中又は授業外で効果的に行われていないように感じる。分かったつもりで学習したことが定着していない子が多いのではないかと感じる。
- ・自由進度学習、子供に委ねる場面が多くなり、子供と直接的に会話をしながらの個に応じた指導が難しくなっていると感じる。
- ・通級など一定の成果をあげていると思いますが、週1時間の通級ではやはり十分ではないと思います。また、通級、特支にかかる子どもが増えている現状で、ファイルの作成や、面談など求められることも増え、結果、担任を圧迫させている原因の一つだと思います。

(21) 外国語学習支援

127 件の回答



◆指導の狙いに関して

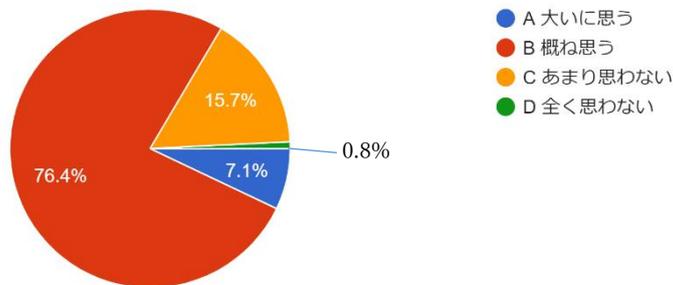
・学習指導要領にもよるが、英語を話せる人材を育てたいのか、英文を読める人材を育てたいのかが不明確だと感じる。30 名に対して1人のALTでは限界があると思う(吉田町だけの問題ではない)。

◆交流訪問の効果

・本年度行ったエッジヒルの交流生訪問は子どもに大きなインパクトを与え、英語を話せるようになりたいと思えた子どもが多いと思います。こういった機会を多からず少なからずやっていくことは効果的だと思います。

(23) 学ぶ力と郷土愛を育むための支援

127 件の回答



◆ICT活用への意識について

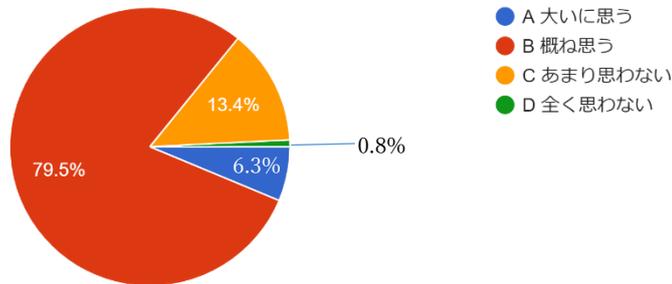
・学ぶ力については、ICT 活用により学ぶ力を高める可能性や選択肢が広がり実際に役立っているが、教職員間で活用能力や活用する意欲に差がある。そのため、進級する度に児童生徒の ICT 利用の環境が大きく変わってしまう可能性がある。また、児童生徒の ICT 活用能力にも差がある。

◆郷土愛の指導に関して

- ・総合や社会科など町を学ぶ機会はあるが、郷土愛までの教育ができていないかはまだまだのように感じる。
- ・教職員が「郷土愛を育む」を意識した投げかけが少ないと感じているから。
- ・自ら学ぼうとする姿勢、郷土愛をあまり児童から感じないから。
- ・地域密着の授業や取り組みが少ないです。
- ・子どもたちが郷土に愛情を持ったり誇りを持ったりする支援が行われているとは思えない。

(25) 保幼小中のつながりのある教育の推進

127 件の回答



◆「つながり」や交流の在り方

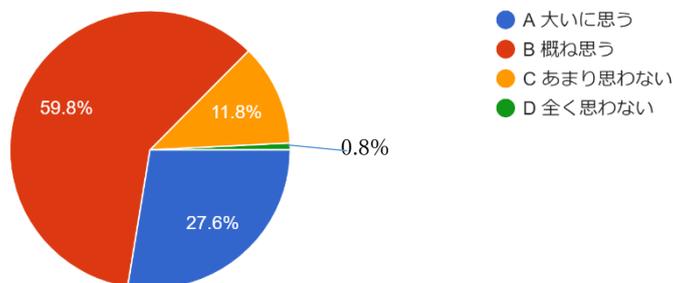
- ・1年生の生活科での交流だけでなく、防災訓練(避難訓練)なども含めて、もっと幅の広い交流(つながり)が必要である。
- ・交流があまり進んでいないような気がする。やり過ぎると忙しくなる。
- ・子どもの交流はもちろん、職員との交流もあるといいなと思いました。
- ・特に、小中の連携が希薄だと考える。小学校で学習したことを、引き継いで中学校の学習に活かしていく必要があるが、その部分の連携ができていないように思う。

◆情報共有について

- ・現在も行っている幼保小連絡会や小中連絡会、中高の引継などでの成果を更に高めるため、長い期間の変化や成長、過去の指導歴や診断などが1つのデータファイルにまとめられ、それぞれの教育機関で共有できるとよい。
- ・全教職員研修で、教科のことだけでなく、生活指導を含めた生徒指導の情報共有を行う必要を感じる。小学校と中学校では、発達段階により生徒の表れが違い、それに対応した指導も違うと思うが、その共有を行っていくべきだと思う。

(27) 授業に集中できる快適な教育環境の整備

127 件の回答



◆施設・環境面

- ・教室の広さが学級の人数にもよるが不十分と感じる(ランドセルが昔に比べ大きくなったことでロッカーからはみ出していることや近年の暑さで持参する水筒も大きくなってることとも要因)。(特別教室・体育館を含む全教室エアコン設置と全トイレの洋式化は本当に子供たちにとってありがたいことで感謝しています)
- ・学校の老朽化が進んでおり、児童の安全性が脅かされるおそれがある。
- ・教室が狭く感じる。荷物を置く場所が少なく、廊下に物が置かれているため窮屈な感じがする。快適とはいえない。

◆業務面

- ・忙しすぎて、落ち着かない。授業に向かう時間が少ない。
- ・授業以外の業務が多すぎるのではないかと思います。(吉田町に限ったことではないと思いますが)